

No.349

## 調剤医療費の動向と大手調剤薬局の経営概況

前田由美子

### 概要

- ・調剤医療費が増加している。処方せん枚数の増加だけではなく、処方せん1枚当たり調剤技術料が伸びているためである。とくに2010年度・2012年度の処方せん1枚当たり調剤技術料の伸びは、調剤報酬本体改定率よりも高かった。
- ・調剤技術料の伸びの背景には経営努力もあるが、処方せん1枚当たり調剤技術料の伸びには、調剤報酬の見直しも関係している。数量的なもの（備蓄品目数、数量割合等）を評価する調剤報酬は、とくに大手調剤薬局で算定が進んでいるようである。
- ・調剤関連技術料全体（医科・薬局合計）は、院内処方から院外処方に移転した分以上に伸びている。この10年間で、院内処方の費用（処方料・調剤料等）は累計で約1,000億円減少したに過ぎないが、院外処方の費用（医科処方せん料、薬局調剤技術料等）は約9,000億円増加した。
- ・大手調剤薬局の経営は比較的堅調に推移している。単純に比較できるものではないが、2014年度は調剤報酬改定（医療費ベース）約200億円に対して、大手調剤薬局4社の内部留保増加額は120億円であり、内部留保（利益剰余金の総額）は2014年度末には697億円である。

<http://www.jmari.med.or.jp/download/WP349.pdf>